

# 肉腫

小酒井不木

青空文庫



「残念ながら、今となつては手遅れだ。もう、どうにも手のつけようが無い」

私は、肌脱ぎにさせた男の右の肩に出来た、小児の頭ほどの悪性腫瘍しゅようをながめて言った。

「それはもう覚悟の上です」と、床しょうぎ几に腰かけた男は、細い、然ししか、底力のある声で答えた。「半年前に先生の仰せおうに従つて思い切つて右手を取り外して貰えば、生命は助かったでしょうが、私のような労働者が右手を失うということは、生命を取られるも同然ですから、何とかして治る工夫はないものかと、大師様だいしに願をかけたなり、祖師様そしの御利益にすがったり、方々の温泉をへ経めぐつたりしましたが、できものはずんずん大きくなるばかりでした。もういけません。もう助かるうとは思いません……」

傍に立つて居た妻君の眼から、涙がぼたぼたと診察室のリノリウムの上に落ちた。真夏の午後のなまぬるい空気が、鳴きしきる蟬の声と共に明け放つた窓から流れこんで来た。私は男の背後に立つて、褐色の皮膚に蔽おほわれた肋骨の動きと共に、ともすれば人間の顔の

ように見える肉腫の、ところどころ噴火口のように赤くただれた塊かたまりの動くのを見て、何と  
いって慰めてよいか、その言葉に窮してしまった。

患者は私の方を振り向こうともせず、俯向きになつて言葉を続けた。

「それについて先生、どうか私の一生の御願いをきいて下さいませんか」

「どんな願いかね？ 僕で出来ることなら何でもしてあげよう」と、答えて、私は患者の  
前の椅子に腰を下した。

患者の呼吸は急にせわしくなつた。

「きいて下さいますか。有難いです」と、御辞儀をして「お願いというのは他ではありま  
せん、このできものを取って頂きたいのです」こういって彼は初めて顔をあげた。

私はこの意外な言葉をきいて、思わず彼の顔を凝視した。

まだ三十を越したばかりの年齢としであるのに、その頬には六十あまりの老翁ろうおうに見るよう  
な皺が寄り、その落ち窪んだ眼には、私の返答を待つ不安の色が漂つて居た。

「だつて……」

「いえ、御不審もつとは尤もです。私は治りたいと思つて、このできものを取って頂くのではあ  
りません。私の右の肩に陣取つて、半年の間、夜昼私をひどい責め苦にあわせた、にくい

畜生に、何とかして復讐がしてやりたいのです。先生の手で、この畜生を、私の身体から切離して頂くだけでも満足です。けれど、出来るなら、自分の手で、思う存分、切りさいなんでもやりたいのです。その願いさえ叶えて下さったら、私は安心して死んで行きます。ね、先生、どうぞ御願います、私の一生の御願いです」

患者は手を合せて私を拝んだ。辛うじて動かすことの出来た右の手は、左の手の半分ほどに痩せ細って居た。私は患者の衰弱しきつた身体を見て、手術どころか、麻酔にも堪え得ないだろうと思つた。で、私は思い切つて言つた。

「かねて話したとおりに、これは肩胛骨けんこうこつから出た肉腫で、肩の骨は勿論、右の手全体切り離さねばならぬ大手術だからねえ。こんなに衰弱して居て、手術最中に若しもものことがあるといけない」

患者は暫らく眼をつぶつて考えて居たが、やがて細君の方を見て言つた。

「お豊、お前も覚悟しとるだろう。たとい手術中に死んでも、この畜生が切り離されたところをお前が見てくれりや、俺は本望だ。なあ、お前から先生によく御願ひしてくれ」  
細君は啜り泣すすきを始めた。彼女は手拭で涙を拭き拭き、ただ私に向つて御辞儀するだけであつた。私は暫らくの間、どう返答してよいか迷つた。治癒の見込のない患者を手術

するのは医師としての良心に背くけれど、人間として考えて見れば、この際、潔く患者の願いをきいてやるのが当然ではあるまいか。たといそのままにして置いたところが、一月とは持つまいと思われる容体である。若し、患者が手術に堪えて、怖い腫物の切り離された姿を見ることが出来たならば、たしかに患者の心は救われるにちがいない。

「よろしい。望みどおり手術をしてあげよう」

と、私ははつきりした声で言い放った。

## 二

「気がついたかね？ よかった、よかった。手術は無事に済んだよ。安心したまえ」

翌日の午前に行われた手術の後、患者が麻酔から醒めたときいて、ただ直ちに病室を見舞つた私は、白布の中からあらわれた渋紙色の顔に向つて慰めるように言った。寝台ベッドを取り囲んで細君も看護婦も不安げに彼の顔をのぞきこんだ。

「有難う御座いました」

と、患者は、まだかすかにクロコホルムのおいをさせなが乍ら答えた。

「静にして居たまえ」

看護婦に必要な注意を与えた後、こういつて私が立ち去ろうとすると、

「先生！」

と患者が呼んだ。この声には力がこもつて居て、今、麻酔から覚めたばかりの人の声とは思えなかった。私はその場にたたずんだ。

「御願いですから、できものを見せて下さい」

私はびつくりした。患者の元気に驚くよりも、患者の執念に驚いたのである。

「あとで、ゆっくり見せてあげるよ。今はじっとして居なくてはいけない」

「どうか、今すぐ見せて下さい」こういつて彼はその頭をむくりと上げた。私は両手を伸して制しながら、

「動いてはいかん。急に動くとき絶する」

「ですから、気絶せぬ先に見せて下さい」といつて彼は再び頭を枕につけた。

私は一種の圧迫を感じた。腫物しゅもつの切り離された姿を見たいという欲望を満足させるために、施してならぬ手術を敢てあえした私が、どうして彼の今のこの要求を拒むことが出来よう。私は看護婦に向つて、先刻切り取つた、彼の右の手を持って来るように命じた。

やがて、看護婦は、ガーゼで覆われた、長径二尺しやくばかりの、楕円形の瑛瑯鉄器製の盆を捧げてはいって来た。それを見た患者は、

「おいお豊、起してくれ」

と言った。

「いけない。いけない」

私は大声で制したけれども、彼は駄々をこねる小児のように、どうしても起してくれと言つてきかなかつた。起きることはたしかに危険である。危険であると知りながらも、私は彼の言葉に従わざるを得なかつた。で、私は、右肩うけんから左の腋わきした下にかけて、胸部一面に繃帯をした軽い身体の背部に手を差し入れ、脳貧血を起させぬよう、極めて注意深く、寝台ベッドの上に起してやつた。患者は気が張りつめて居たせいか案外平気であつたが、でもその額の上には汗がにじみ出た。

私は看護婦に彼の身を支えて居るよう命じ、それから、患者の両脚を蔽つた白布の上に、瑛瑯鉄器製の盆をそつと載せ、ガーゼの覆いを取り除けた。五本の指たなごころ、掌ぜんはく、前膊じょうはく、上膊はく、肩胛骨、その肩胛骨から発した肉腫が頭となつて、全体が恰あだかも一種の生物の死体でもあるかのように、血に塗まみれて横たわつて居た。患者の顔には、無力にされた仇敵きゆうてき



を見るときのような満足な表情が浮び、二三度その咽喉のどぼとけ仏が上下した。彼の眼は、二の腕以下の存在には気づかぬものの如く、ひたすらに肉腫の表面にのみ注がれた。

凡そ三分ばかり彼は黙って見つめて居たが、急にその呼吸がはげしくなり出した。ヨーおよドホルムのおいが室内に漂った。

「先生！」と彼は声を顫ふるわせて叫んだ。「手術に御使いになった小刀を貸して下さい」

「え？」と私はびつくりした。

「どうするの？」と細君も、心配そうに彼の顔をのぞき込んでたずねた。

「どうしてもいいんだ。先生、早く！」

私は機械的に彼の命令に従った。二分の後私は、手術室から取って来た銀色のメスを盆の上に置いた。

すると彼は、つと、その左手をのぼして、肉腫を驚づかみにした。彼の眼は驚くように輝いた。

「うむ、冷たい。死んでるな！」

こういい放つて彼は細君の方を向いた。

「お豊？ この繃帯を取って、俺の右の手を出してくれ！」

この思いもよらぬ言葉に私はぎよつとした。はげしい戦慄が全身の神経を揺ぶった。

「まあ、お前さん……」と、細君。

それから怖ろしい沈黙の十秒間！ その十秒間に患者は、自分の右手が切り離されて目の前にあることをはつきり意識したらしかった。

「ウフ、ウフ……」

うめきとも笑いとも咳嗽せきともわからぬ声を発したかと思うと、彼は突然その唇を紫色に変え、がくりとして看護婦の腕にもたれかかった。その時、彼の左手は身体と共に後方に引かれたが、左手の指が肉腫の組織に深くくい込んで居たため、切り離された右手は、盆をはなれて白布の上に引つ張り出された。

そうして、五秒の後、断末魔の痙攣けいれんが起つた時には、その右手も共に白布の上で躍って、あたり一面に血の斑点を振りまいた。

# 青空文庫情報

底本：「怪奇探偵小説名作選」 小酒井不木集 恋愛曲線」ちくま文庫、筑摩書房

2002（平成14）年2月6日第1刷発行

初出：「新青年」博文館

1926（大正15）年3月号

入力：川山隆

校正：宮城高志

2010年3月14日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 肉腫

小酒井不木

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>